中建日報_2024年6月25日（火曜日）

日本技術士会山口県支部

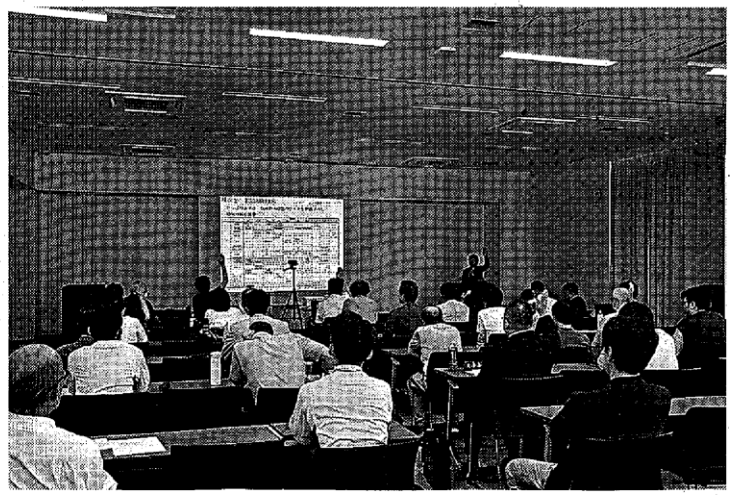
試験合格者祝賀行事開催

資格について講演と討論

日本技術士会中国本部山口県支部（河内義文支部長）は15日、山口市のKDDI維新ホールで「2023年度技術士第一次試験・第二次試験合格者合同ガイダンス・祝賀記念講演会」を開催。会場とオンライン配信によるハイブリッド方式で行われ、合格者や会員ら約50人が参加した。

はじめに河内支部長が「今年も山口県内に新たな技術士が誕生した。我々は、次代を担うみなさんが仲間に加わることに大きな期待を抱く。好々爺として導き着地させる役目が一番大事だと思っている。常識問題だけではなく、技術者同士のもめ事を上手く収め、科学的知見だけが正しい方向に導かないことも知っている。あの時代に、関門橋の架橋や人類を月に立たせている。人手不足の言い訳だとしか思えないDXやBIM／CIMは、ただのツールに過ぎない。企業だけではなく、国や行政の若手が離職すると聞く。土木の分野に入ったのに一日中画面だけを見続けている。書類ばかりで、ツールをいかにもメインのように崇めて信仰してきたツケで、早急に戻す必要がある」と述べた。続けて「合格者のみなさんは、プロフェッショナルエンジニアの称号を取得した。技術の本質を見抜き、我々にどんどん知恵を借りに来てもらいたい」と呼びかけた。

記念講演会では、徳山工業高等専門学校の温品達也准教授が「技術士資格が切り拓いた世界」と題し講演した。温品准教授は「技術士の試験で一番重要視したのが傾向分析。過去10年に出題されたキーワードをまとめると傾向がつかめる。最近出ていない、近年重要なテーマなど出題されそうなものが見えてくる。重要な分野は限られるなどある程度絞り込める。不合格者は、本番と同じ条件で練習しておらず、問題を解きながら資料を見て時間を計っていない。受験者自身で分析することが重要で、何も見ず、本番と同じ時間、自分で分析して問題をつくって解くこと。その際は、技術士に添削してもらうことが大切。忙しいはやらない理由にはならない。これらが、二次試験や社内での教育の参考になれば」と述べ、自身の経験をもとにした技術士の試験対策や研究内容などについて解説した。



第2部では、技術士の魅力について4人の技術士が参加してトークライブが行われた。自己紹介や資格取得によるメリット、技術士の魅力、今後の目標、新合格者へのエールなど、それぞれの立場から意見を述べ、参加者らと意見を交わした。